

指定管理者制度導入施設の運営状況（令和3年度）

1. 施設名等

施設名	大分県立総合文化センター(iichiko総合文化センター)	所在地	大分市高砂町2-33
		電話番号	097-533-4000
		ホームページ	https://emo.or.jp/
	大分県立美術館(OPAM)	所在地	大分市寿町2-1
		電話番号	097-533-4500
		ホームページ	https://www.opam.jp/

2. 指定管理者および県の所管部課（窓口）

指定管理者	名称 所在地 指定期間	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分市高砂町2-33 平成30年4月1日～令和5年3月31日	県の所管部課 (局・室)	企画振興部芸術文化スポーツ振興課 TEL : 097-506-2057
-------	-------------------	--	-----------------	--

3. 施設の概要

設置年月日	平成10年8月1日	※大分県立総合文化センター
設置根拠	大分県立総合文化センターの設置及び管理に関する条例	
設置目的	文化の創造と享受の場を提供することにより、県民の多様な文化活動を促進し、もって個性ある地域づくりと潤いのある生活の創造に寄与する。	
事業内容	①センターの施設及び設備の利用に関すること ②音楽・演劇等芸術文化の鑑賞の機会を提供すること ③文化に関する情報を収集し、及び提供すること ④その他、センターの目的を達成するために必要な事業	
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ iichikoグランシアタ（大ホール1,966席） ・ iichiko音の泉ホール（中ホール 710席） ・ iichikoアトリウムプラザ ・ リハーサル室・練習室（9室）、映像小ホール、県民ギャラリー、会議室（6室） ・ 駐車場（295台） 	
使用料等	※終日利用の料金 <ul style="list-style-type: none"> ・ iichikoグランシアタ：284,000円～511,100円 ・ iichiko音の泉ホール：126,300円～227,400円 ・ iichikoアトリウムプラザ：5,250円～41,900円 ・ リハーサル室・練習室：3,570円～17,600円、映像小ホール：36,550円、 県民ギャラリー：9,400円～10,800円 ・ 会議室：13,750円～29,450円 ・ 駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、 営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円 	
閉館日	第2・第4月曜日及び年末年始（12月29日～1月3日）	

設置年月日	平成27年4月1日	※大分県立美術館
設置根拠	大分県立美術館設置及び管理に関する条例	
設置目的	芸術文化創造の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、県民の感性や創造性を高め、文化を核とした地域力を高めるため。	
事業内容	①美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。 ②美術品等に関する調査及び研究に関すること。 ③美術に関する情報の収集及び提供に関すること。 ④美術に関する講演会、講座等を開催すること。 ⑤美術館の施設及び設備の利用に関すること。 ⑥学校及び他の美術館、博物館その他の文化施設等との連携に関すること。 ⑦その他、美術館の目的を達成するために必要な事業。	

施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1階 展示室A アトリウム ミュージアムショップ モバイルカフェ ・ 2階 アトリエ 研修室 体験学習室 カフェ ・ 3階 展示室B コレクション展示室 ・ 屋外駐車場（143台、24時間利用可） 地下駐車場（107台、8時～23時）
使用料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観覧料（コレクション展）：200円～300円 ・ 展示室A：9,420円～37,700円（終日） ・ 展示室B：9,420円～37,700円（終日） ・ アトリウム：4,900円～19,300円（終日） ・ 研修室：1,200円（1時間） ・ アトリエ：1,200円（1時間） ・ 駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円
閉館日	原則として無休（館内点検等のための臨時休館を除く）

4. 目標指標の達成状況

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立総合文化センター】 ホール年間利用率(%) ※グランシアタと音の泉ホールの 利用率の合計を2で除した数	平成30年度	87.0	90.9	104.5%
	令和元年度	87.0	81.2	93.3%
	令和2年度	87.0	42.7	49.1%
	令和3年度	87.0	64.0	73.6%

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立美術館】 来館者数(人)	平成30年度	500,000	572,001	114.4%
	令和元年度	500,000	532,307	106.5%
	令和2年度	500,000	256,105	51.2%
	令和3年度	500,000	431,357	86.3%

5. 施設の利用状況
【県立総合文化センター】

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成30年度	16,772	23,339	20,811	20,730	22,469	21,128	
	令和元年度	17,269	16,915	18,358	18,129	23,584	26,064	
	令和2年度	0	0	275	4,811	2,216	7,069	
	令和3年度	4,951	418	8,430	9,444	5,791	9,293	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成30年度	18,481	21,667	22,181	9,636	18,468	24,648	240,330
	令和元年度	17,369	22,155	18,911	6,806	17,824	298	203,682
	令和2年度	7,456	12,129	5,764	3,264	8,901	9,653	61,538
	令和3年度	17,336	16,091	16,929	4,761	4,473	12,879	110,796

【県立美術館】

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成30年度	33,564	43,141	32,298	35,142	50,320	43,271	
	令和元年度	47,793	48,692	38,894	50,431	82,513	44,617	
	令和2年度	3,331	4,432	9,068	17,293	37,820	27,679	
	令和3年度	25,379	22,078	24,119	43,852	61,353	30,817	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成30年度	71,402	66,758	41,819	51,133	56,780	46,373	572,001
	令和元年度	51,327	40,787	43,737	41,850	41,245	421	532,307
	令和2年度	28,119	19,367	31,783	23,133	24,034	30,046	256,105
	令和2年度	36,844	32,099	34,598	35,347	33,068	51,803	431,357

6. 利用者満足度調査等の実施状況

利用者満足度調査	実施方法	<p>iichiko総合文化センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ①施設利用者アンケート(令和4年3月実施):525団体(個人を含む)うち196団体回答(回収率37.3%) ②自主公演開催時に公演ごとにアンケートを実施 ③メール(専用アドレス)、電話、FAX、意見箱(館内6か所)による意見の受付 <p>大分県立美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> ①施設利用者アンケート(令和3年3月実施):43団体うち31団体回答(回収率72.1%) ②施設来館者アンケート(随時):館内3カ所にアンケート用紙を設置し、随時回収
	実施結果	<p>iichiko総合文化センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせると80.0%となり、利用者の満足度は高い。 ・施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「立地がよい」「施設・設備が充実」「料金が適正」「知名度が高い」などである。 ・次回以降の再利用意向は「ぜひ使いたい」「使いたい」を合わせると77.2%であり、高い再利用意向を得ている。 ・職員の対応について、「やや満足」以上が71.4%、「普通」を含めると95.5%と高い評価であった。 <p>大分県立美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせると100%となり、極めて高い評価を頂いた。 ・施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「立地がよい」「知名度が高い」「施設・設備が充実」「サービスが良い」などである ・次回以降の再利用意向は「ぜひ使いたい」「使いたい」を合わせると92.9%であり、非常に高い再利用意向を得ている。 ・職員の対応について、「満足」が97.7%と昨年度と比較して4.1ポイント増加。「不満」という回答は0で、コロナ禍の中、利用者 と真摯に向き合った結果、高い評価を頂いた。

利用者等からの主な意見・要望・苦情	左の対応状況
(センター・美術館)十分なコロナウイルス対策をして欲しい	これまでの感染対策に加え、総合文化センターではサーモカメラの追加や、非接触型アルコール除菌装置、CO2 測定器などを導入。美術館でもサーモカメラの追加や自動噴霧式の手指消毒スタンドを設置するなどし、文化庁の助成金を活用しながら対策強化を図った。
(センター・美術館)インターネットで手続きができるとうい	HPに施設の空き状況を掲載したうえ、メールによる申請受付を開始。令和4年度中にはネット予約とクレジット決済対応のシステムを導入する。
(美術館)授乳室に荷物置きがあると助かる。	各個室スペースに荷物置きのかごを購入し設置した。
(美術館)カフェ、ショップの取扱い商品を増やして欲しい。	カフェでは企画展と連動した期間限定メニュー8種類を提供した。ショップでは大分県出身作家の作品や図録、関連グッズなど企画展に合わせた商品を販売。また新規オリジナルグッズとして大分県の収蔵作品を使用したポストカード17種、クリアファイル4種、チケットホルダー1種を制作し販売開始した。

7. サービス向上に係る主な取組内容

サービス提供体制の強化	<ol style="list-style-type: none"> ① iichiko総合文化センターと美術館の管理業務に関して、それぞれの施設の特異性を考慮すべき業務を除き、清掃、駐車場等警備、植栽管理等の業務を一括で発注し、スケールメリットを活かした最適な方法で委託した。 ② センター1階のインフォメーションがセンターと美術館の情報を共有し相互案内をすることで、両施設が一体となった業務を展開し、施設全体のイメージアップと利用者の利便性の向上を図った。 ③ iichiko総合文化センターでは大分県立美術館の、大分県立美術館ではiichiko総合文化センターの専用チラシスタンド設置、美術館連絡通路に展示ポスターを設置など、両施設の連携による情報提供体制の強化に努めた。 ④ iichiko総合文化センターと大分県立美術館共通を中心に県内の芸術文化に広く親しんでもらうための「大分県芸術文化友の会びび」について会員拡大に取り組むとともに、様々な芸術文化関連情報の発信やチケット割引等各種サービスの提供を行った。 ⑤ iichiko総合文化センターで定期的に美術館への誘導を館内放送し、互いの施設の利用促進を図った。 ⑥ 両施設の駐車場について、片方が混雑した際の誘導を徹底し、効率的運営に努めた。 ⑦ 施設と駐車場の一体的利用の促進を図るため、センター練習室利用者、会議室、アトリウムプラザ、県民ギャラリーの利用者1名に駐車券1時間分を提供し、駐車場料金の負担軽減に努めた。 ⑧ iichikoグランシアタをはじめ、センター各施設において、休館日での利用希望に応じて臨時開館を行うなど、利用者のニーズに柔軟に対応することで、利用しやすい施設づくりに努めた。 ⑨ 美術館の裏側を案内するバックヤードツアーを開催。建築や設備など展覧会以外の魅力を発信し、新たな美術館のファンを開拓した。 ⑩ 空気環境が整う、5月と10月にガラス水平折戸を開放。オープンカフェや歩行者天国を実施し、美術館のコンセプトでもある「街に開かれた美術館」を体現した ⑪ より美術館を楽しんでいただけるよう、美術館来館者に対してOPAMサポーターが建物や展示物を紹介する「館内ガイドツアー」を月曜日と木曜日に実施した。 ⑫ コロナ禍における鑑賞・演奏機会の確保として、各種動画配信や若手アーティスト公演事業等を引き続き実施するとともに、新たな取り組みの一つとして、友の会びび有料会員向けの動画配信サービス「びびVision」をスタートした(R4.1.20～)。
-------------	--

(ホール機能の優位性を活かした芸術性やオリジナリティの高い自主公演の開催と、利用者に親しまれるiichiko総合文化センターづくり)

イベント等の充実(センター)

- ① 県民ニーズを捉えたバランスの良い年間ラインナップの構築
 - ・令和3年度の公演は、センターの特徴を生かした①大規模公演(オーケストラ、オペラ、バレエのうち1つ)、②西洋音楽発祥の地プロジェクトに関わる公演、③親子で楽しめる公演、④美術館の企画展と連携した公演の4つのコンセプトに基づき実施した。
 - ・具体的には、バレエ、室内楽を中心に演劇や声楽など幅広いジャンルにおいて質の高い13公演を自主企画により主催するとともに、オーケストラやミュージカルなど共催9公演を実施した。
 - ・大規模公演では、バレエ公演を行った。日本を代表する東京バレエ団が11年ぶりに当劇場でオーケストラ付き全幕公演を行った。クリスマスの時期に演目は「くるみ割り人形」(チャイコフスキー作曲)であり、チケットは早い段階で完売し親子での鑑賞など好評を博した。
 - ・「西洋音楽発祥の地プロジェクト」では、「東京ソノーツ」や「アントネッロ」といった古楽器アンサンブルの公演を実施したほか、諏訪内晶子氏によるバッハの無伴奏ヴァイオリンリサイタルを開催し、観客を魅了した。
 - ・親子で楽しめる企画として、演劇「かがみ まど とびら」は観客と一緒に想像力を働かせて冒険に出かける内容として上演し、「音楽の絵本 チェンバーオーケストラ」では動物の格好をした演奏者がクラシックから童謡まで分かりやすい編曲で演奏し、多くの子ども達を楽しませるとともに楽器に興味を持つきっかけづくりができた。
 - ・美術館の企画展「サンリオ展」と連携して、サンリオファミリークラシックコンサートを開催するなどした。
 - ・チケット管理システムについては老朽化した販売システムを更新した。ネット予約の追加や支払いのキャッシュレス化など利便性向上のためのシステム開発を行い完成した(令和4年4月1日運用開始)。
 - ・公演の開催に当たっては、全国公立文化施設協会のコロナウイルス感染拡大防止ガイドライン等に基づき、観客の手指消毒や検温、連絡先の記入等を徹底するとともに、必要に応じて出演者やスタッフ等関係者のPCR検査を実施するなど、観客、出演者、スタッフ等を含め、引き続き徹底した感染防止に努めた。
- ② 地元アーティストや芸術団体等と協働した県内芸術レベルの向上に資する公演制作
 - ・令和2年度にスタートした「西洋音楽発祥の地プロジェクト」の集大成となる創作舞台「ムジカと生きる」について、NPO法人大分県芸術振と共同して制作発表を行うとともに、芸術会員を対象に出演者の募集を行いオーディションによる配役の決定など令和4年度の本番に向けた準備を行った。
 - ・また、「若手音楽家インレジデンス」事業として、大分県出身の若手音楽家に、大分に滞在し音楽づくりに集中してもらい、その間に楽曲の公開リハーサルやアウトリーチ活動を行った。音楽づくりの現場を公開することにより、地元音楽家へ刺激を与え、新たな聴衆を獲得することに繋がった。
- ③ 全国に発信できる公演や地元芸術団体等への支援
 - ・全国に発信できる公演として、日本を代表する東京バレエ団の「くるみ割り人形」や世界的ヴァイオリストの諏訪内晶子によるヴァイオリンリサイタルを招聘した。また、「日本フィルハーモニー交響楽団大分公演」、「おおいた第九を歌う会」など、県内音楽団体の公演に共催して支援した。
- ④ 新たなファン層の拡大に資する普及啓発事業の充実
 - ・初心者でも代表的な舞台芸術に気軽に親しめるように、青島広志氏の「おしゃべりバレエティックコンサート」をはじめ、古楽器やチェンバロ、フルート、歌舞伎、ミュージカルのレクチャーやワークショップを実施した。
 - ・また、遠隔地に居住するなど日頃クラシック音楽に触れる機会の少ない人にクラシック音楽の楽しさや生の演奏の迫力を身近に味わってもらうアウトリーチ活動について、新規派遣アーティストを公募し3組4名を新たに登録(計12組17名)、小学校等に計18回の活動を行った。
 - ・さらに、社会人向けに昨年度に引き続き、西洋音楽史講座を4回開催しホール来場者の増加を図った。

(県民に親しまれる大分ならではの特色ある美術館づくり)

① 「出会い」をテーマにした新たな視点に基づく県民ニーズを捉えた展覧会の開催・誘致

- ・多様なジャンルをバランスよく企画し7つの展覧会を開催した。
- ・自主企画展として、4～5月にはNHK Eテレで人気の「びじゅチューン！」とコラボレーションした「びじゅチューン！なりきり美術館」、5～6月は臼杵市出身佐藤雅晴の「佐藤雅晴 尾行ー存在の不在／不在の存在」、9～10月は「生誕110年記念 糸園和三郎展 ～魂の祈り、沈黙のメッセージ～」を、巡回企画として12月～1月は「GENKYO 横尾忠則」を開催した。
- ・また、メディア各社との共催により、7月～9月には「サンリオ展～ニッポンのカワイイ文化60年史～」、11月～1月には「相田みつを 全貌展～いのちの尊さ ことばのチカラ～」、2月～3月には「庵野秀明展」といった話題の展覧会を開催し、多くの人々が美術館に訪れ展示を楽しむ機会を提供した。
- ・国立科学博物館などとの連携により、7月～9月には「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」、12月～1月には「生命のれきしー君につながるものがたりー」、2月～3月には「宇宙技術および科学の国際シンポジウム(ISTS)開催記念 人類の宇宙への挑戦」と自然史系や宇宙に関する展覧会を開催した。
- ・日本博物館協会のコロナウイルス感染拡大防止ガイドライン等に基づき、引き続き検温、連絡先の記入、入場制限等を徹底するとともに、必要に応じてスタッフ等の関係者のPCR検査を実施するなど徹底した感染防止対策に努めた。

② 大分の伝統と文化や、所蔵品の新たな魅力を紹介するコレクション展の開催とその展開

① 所蔵作品の展示

- ・2か月に1回程度、統一したテーマを設けて展示替えを行い、所蔵作品の魅力を最大限引き出すようなコレクション展示を5回実施した。5月～7月は「大分、美の回廊」、7月～9月は「OPAM のにんぎもの」、11月～12月は「豊の国・温故知新」、12月～2月は「池田栄廣生誕100年・吉村益信没後10年 革新と前衛の美術」、2月～3月は「ボタニカル・ガーデン」を開催した。
- ・また、開催中の企画展半券提示で、コレクション展を無料で鑑賞できるとし、入場者の増加を図った。

② 所蔵作品の管理

- ・県の所蔵作品を財産台帳及び情報システムのデータベースにより適正に管理するとともに、展示・保存環境を適正に維持するため、収蔵庫、展示室等の日常的な空調管理、記録を徹底した。
- ・また、地震や火災に備え、免震装置や防火シャッター等の定期的な管理を行い、所蔵作品の安全対策に万全を期した。

③ 美術品収集

- ・県が行う美術品等の収集に対し、当財団として大分県美術資料収集委員会や大分県立美術館美術資料評価委員会に専門的な観点から必要な調査等を県と一体となって実施した。(令和3年度実績：購入2点、寄贈14点、寄託2点)

④ 美術品の調査及び研究

- ・美術家や美術品、保存修復、展覧会企画、教育普及、県内及び県ゆかりの美術・工芸に関する調査研究(大分市出身の吉村益信など)を県と一体となって行うとともに、その成果を収集事業やコレクション展に反映させるなど、職員の資質向上も含めた美術館の企画運営に活かした。
- ・「令和2年度年報」及び「紀要第6号」の編集や自主企画展「佐藤雅晴 尾行ー存在の不在／不在の存在」や「生誕110年記念 糸園和三郎展 ～魂の祈り、沈黙のメッセージ～」の図録の編集を行った。

③ 美術鑑賞の機会を提供するための地域巡回展の実施

- ・予定していた地域巡回展(九重町)は新型コロナウイルス感染症の影響により、地域と協議のうえ中止した。

④ アトリウムやカフェ・ミュージアムショップを中心とした、多様な価値観を提示する交流拠点としての取組を推進

① アトリウム等の活用

- ・「サンリオ展」などの集客の見込まれる企画展ではアトリウムに特設のオリジナルグッズショップを設け、展覧会鑑賞後に楽しんでいただける環境を創出した。
- ・「庵野秀明展」では、展示室Aでの有料展示に加え、アトリウムに無料展示エリアをつくり大型の模型を設置し、展示空間を広げると同時に展覧会のスケールの大きさを演出した。
- ・美術展示だけに留まらず、「国立科学博物館巡回展 生命のれきし」や「人類の宇宙への挑戦」といった、歴史や科学、宇宙にまつわる展示も展開し、多様な催事を年間通じて実施した。
- ・アトリウムの利用計画について事前に利用者調整を行った上、空間を最大限に活用できるよう、ショップ、カフェのモバイル機能を活かした、レイアウト変更を実施した。

② 情報コーナー

- ・美術に関する図書や情報等を紹介する「情報コーナー」において、蔵書4,000冊を有効活用するなど、企画展の内容等に応じて3か月に1回、書籍の入れ替えを行い、入館者へ魅力ある美術情報の提供に努めた。

③ ミュージアムショップ

- ・株式会社子代田に委託し、企画展と連動したグッズの企画・販売をしたほか、美術館の開館に合わせた営業及び大規模イベントに合わせた臨機応変な営業にも努めるなど、これまでの運営で培ったノウハウをベースにさらなるサービス向上を図った。
- ・特に、令和3年度は所蔵作品をモチーフにしたオリジナルグッズ(ポストカード、クリアファイル、チケットホルダー)を新たに作成し、販売を開始した。

⑤ ミュージアムカフェ

- ・社会福祉法人博愛会に委託し、県産農林水産物をふんだんに使った質の高いメニューの提供や、企画展や季節に応じた定期的な新規メニューの開発を行い、これまでの運営で培ったノウハウをベースにさらなるサービス向上を図った。

イベント等
の充実(美
術館)

8. 管理に係る収支の状況

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収入額(A)		780,522	757,169	763,973	760,512
内 訳	県からの委託料	447,611	453,114	456,386	457,272
	利用料金	327,160	300,229	157,291	213,710
	雑収入	5,751	3,826	150,296	89,530
支出額(B)		780,522	764,110	763,973	761,819
内 訳	人件費	200,126	198,087	200,145	195,938
	維持管理費	2,773	2,677	1,732	2,341
	事業費	552,543	538,034	536,552	537,996
	iichikoパートナーシップ履行 事業費	24,000	24,222	24,444	24,444
	サービス改善提案事業費	1,080	1,090	1,100	1,100
収支差額(A-B)		0	△ 6,941	0	△ 1,307

9. 施設使用料等の収入状況

県立総合文化センター

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成30年度	32,676	20,121	19,208	26,448	20,415	20,705	
	令和元年度	35,382	22,773	20,734	20,453	23,727	22,264	
	令和2年度	18,040	529	4,138	9,002	8,605	12,278	
	令和3年度	19,905	8,405	9,845	13,412	18,110	15,579	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成30年度	20,334	30,417	23,457	19,038	15,090	22,570	270,479
	令和元年度	24,098	19,132	17,376	17,399	14,766	7,689	245,793
	令和2年度	10,957	10,896	11,382	11,127	7,145	13,540	117,639
	令和3年度	13,983	18,129	16,907	10,875	4,794	15,250	165,194

県立美術館

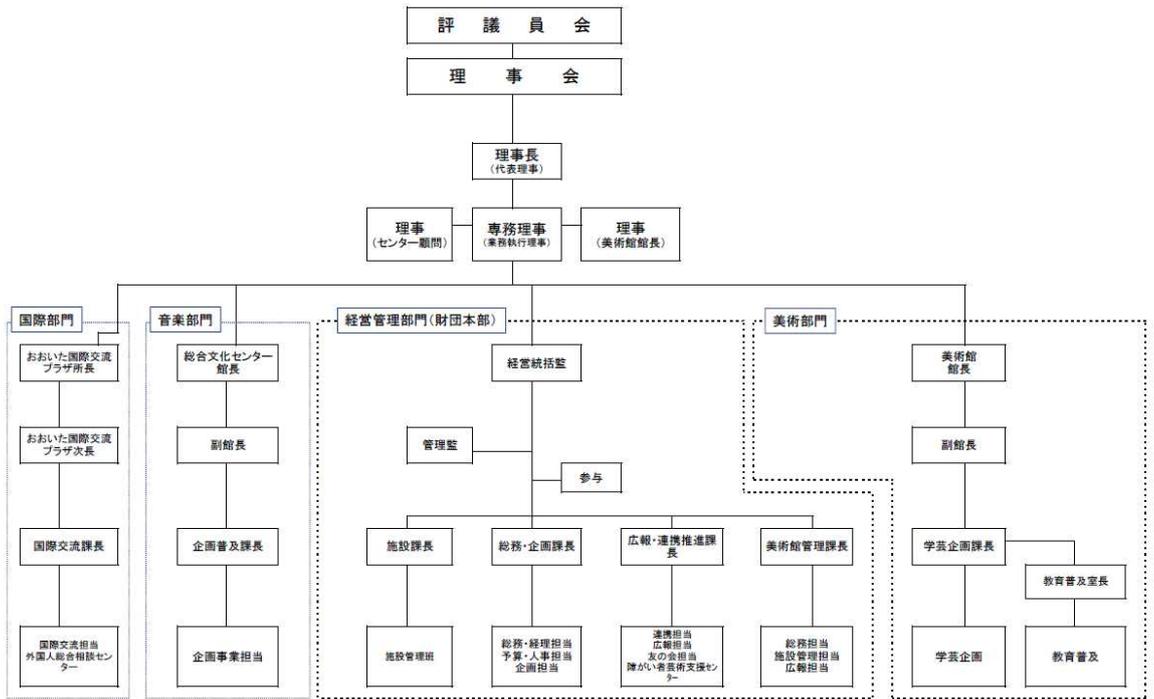
利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成30年度	6,963	2,313	1,846	2,491	8,886	5,237	
	令和元年度	7,934	3,013	2,213	4,182	7,899	7,004	
	令和2年度	3,096	△ 114	629	1,307	7,443	2,724	
	令和2年度	5,890	800	3,081	5,034	2,683	1,494	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成30年度	3,499	3,650	3,087	3,598	9,301	5,810	56,681
	令和元年度	2,919	2,379	9,088	2,627	2,820	2,357	54,435
	令和2年度	5,697	1,807	2,605	3,741	4,920	5,797	39,652
	令和3年度	5,588	2,202	2,948	2,156	2,252	14,388	48,516

10. 指定管理者の管理体制

令和3年度(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団組織図

令和3年6月28日現在

施設管理体制



職員数 (R3.6.28)	正規職員	パート	嘱託	県から派遣	契約職員	その他	合計	
		10			10	32	4	

1 1. 適正な管理運営に係る主な取組内容

<p>職員の資質・能力の向上</p>	<p>① 財団主催の研修会のほか、外部で開催されるものも含めた各種研修会を活用することにより各職員の職務職責に応じた能力を養成した。</p> <p>② 「職員面談」や「能力評価」「業績評価」を実施して職員の努力や成果を反映することで職員の士気向上を図った。</p> <p>③ 各所属における業務内容を精査した上で、「職員面談」や「能力評価」「業績評価」により、職員の適正配置や効率的な組織づくりに努めた。</p> <p>④ 衛生委員会を定期的に開催するとともに、職員の定期健康診断を実施した。</p> <p>⑤ 「働き方改革」に対応した労働環境の整備として「出退勤管理システム」を令和2年度から導入し、超過勤務の抑制及び有給休暇の取得促進に努めた。</p> <p>⑥ 「パートタイム・有期雇用労働法」の施行に合わせて、契約職員の住居手当や扶養手当について改正を行い待遇改善を図った。</p>
<p>防災に関する研修・訓練</p>	<p>① マグニチュード8クラスの東南海・南海地震発生の切迫性が指摘される中、図上訓練を行うとともに、職員以外の関係者も参加し、実態に即した防災訓練を実施した。また、センターでは複合施設管理者による合同訓練やemoスタッフを利用者役とした訓練も実施した。</p> <p>② 併せて、火災や台風をはじめ、不審者(物)、感染症など、様々なリスクに迅速かつ的確に対応するため、態勢を整えるとともに、日頃から危機管理意識を高められるよう職員に対する研修を行った。</p> <p>③ 職員1名を防災士養成研修に派遣し、防災士資格を取得させるなど、危機管理体制の強化に努めた。</p>
<p>安全対策等</p>	<p>【iichiko総合文化センター】</p> <p>① 的確な保守点検により、施設、設備の正常な性能を維持するとともに、県との協力体制の中で、改修計画に基づく、電気室設備・空調設備の改修工事を行った。</p> <p>② 令和5年度から県が実施するホールの耐震天井改修工事について、県と協議を行い、事前準備を進めた。</p> <p>③ 備品台帳により、備品を適切に管理した。</p> <p>④ 植栽等の維持管理業務については、ホール、アトリウムに配置した自然木への灌水、施肥、剪定、枯葉撤去等を行い、適正に管理した。</p> <p>⑤ 清掃業務については、施設利用の快適さと美観の保全のため専門業者による清掃を日常的に行った。</p> <p>⑥ 保安警備業務については、防災センターを中心とした保安体制により、施設内の秩序を維持し、利用者の安全を守った。</p> <p>⑦ 1月22日に発生し日向灘を震源とする地震によりグランシアタ舞台額縁アーチの破損や音の泉ホール楽屋の床接合部の段差発生などの被害があったが、県の対応事業により復旧した。</p> <p>【県立美術館】</p> <p>① 的確な保守点検により施設、設備の正常な性能を維持するとともに、県との連携により、不具合箇所の確認を継続して行い、安定した展示環境、収蔵環境の確保に努めた。</p> <p>② 備品については、備品台帳により適切に管理した。</p> <p>③ 植栽等の維持管理業務については、美術館の美観維持のため、定期的な植栽等の管理を行った。</p> <p>④ 清掃業務については、美術館としての快適な空間、適切な収蔵環境や展示環境を保つため、高い仕様の清掃業務を行うほか、総合的有害生物管理(IPM)により、生物的防除、化学的防除、物理的防除等を徹底した。特に、美術館管理を行う上で関係者全員の意識統一が必要となるIPMについては、財団だけではなく、警備等の委託業者も含めて一体的な研修を実施した。</p> <p>⑤ 保安警備業務については、夜間の機械警備に加え、24時間常駐の警備員を配置することで、徹底した警備体制を整え、事故、盗難等を未然に防いだ。</p> <p>【主な新型コロナウイルス感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 業種別ガイドラインに基づく対策マニュアルの作成 ・ 館内の手指消毒、サーモカメラ等の設置、窓口の飛沫防止パネル・空気清浄機の設置、空気環境設備の強化 ・ 利用者及び職員のマスク着用の徹底、入館者への検温・連絡先等の記入 ・ 県の方針に基づく入場制限の実施 ・ 必要に応じスタッフへのPCR検査等を実施 ・ 財団内の対策会議を随時開催し、対策を徹底